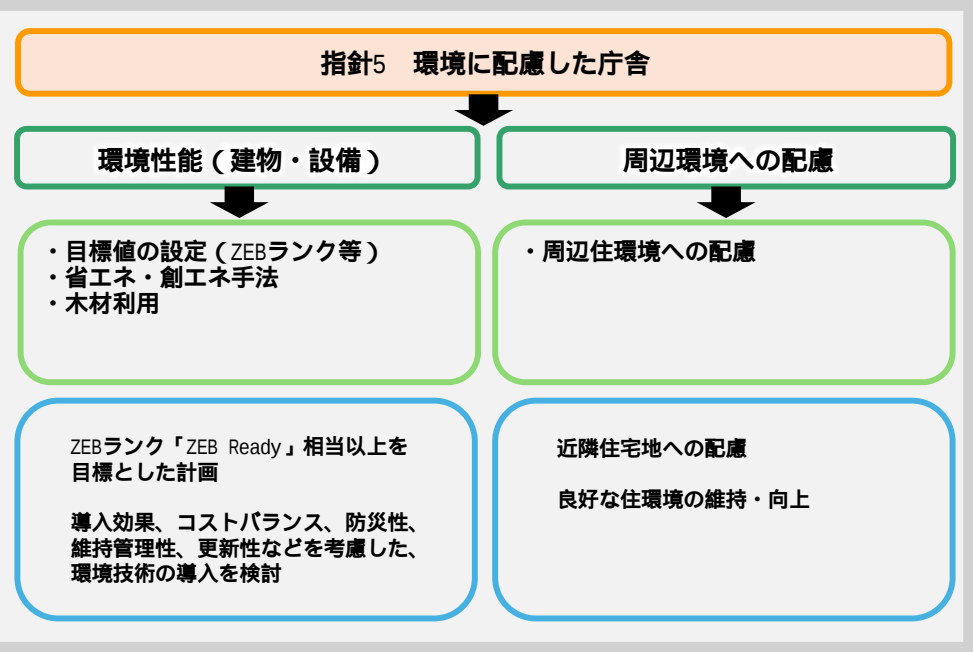
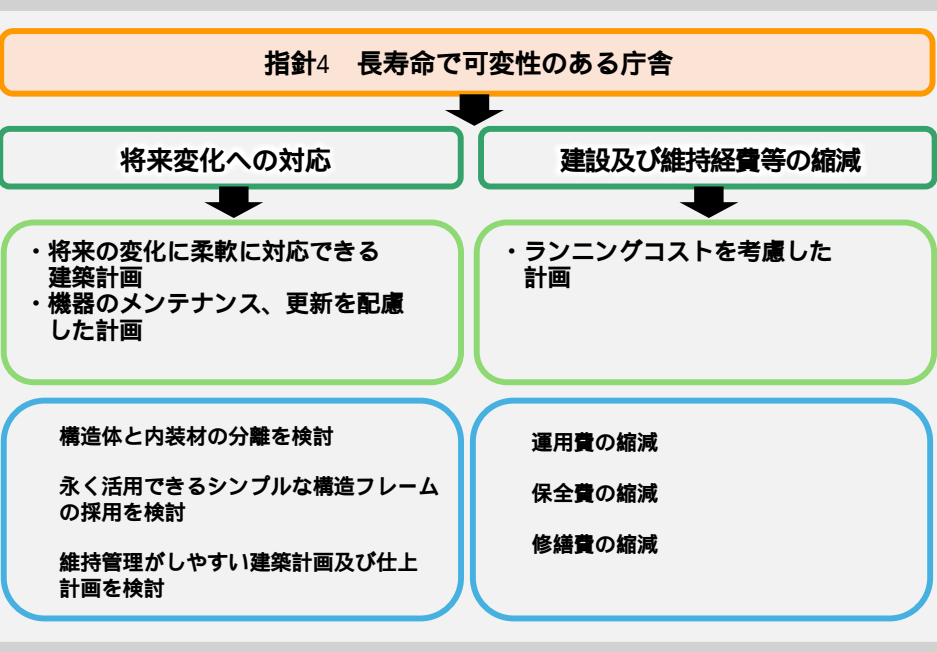
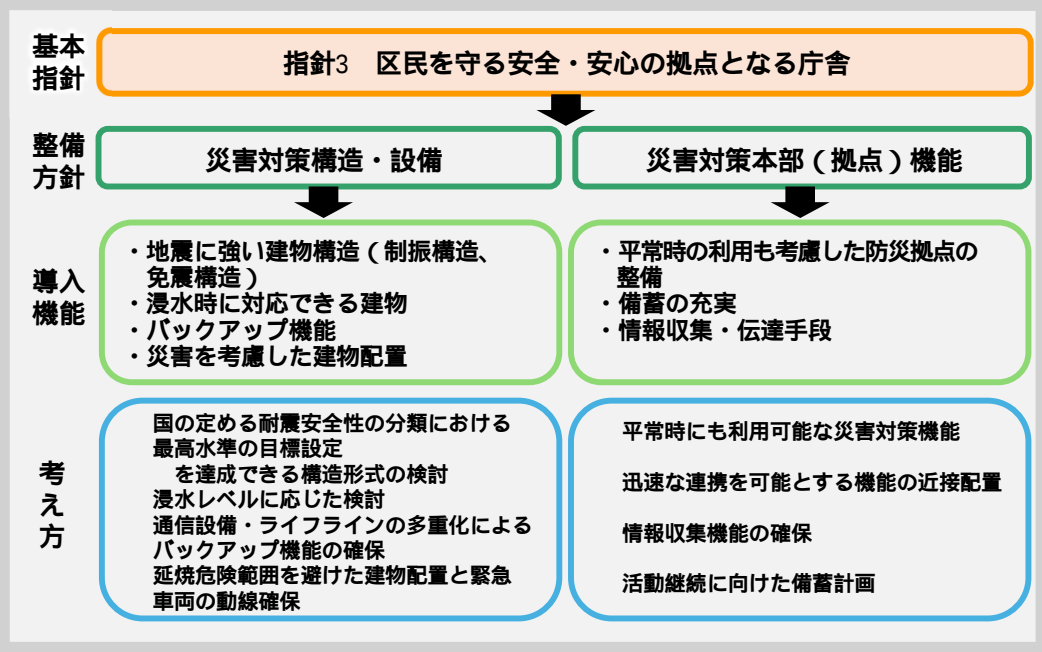


1 新庁舎に必要な機能



2 新庁舎に必要な規模

1. 規模算定の基礎データ

(1) 職員数

1,783人

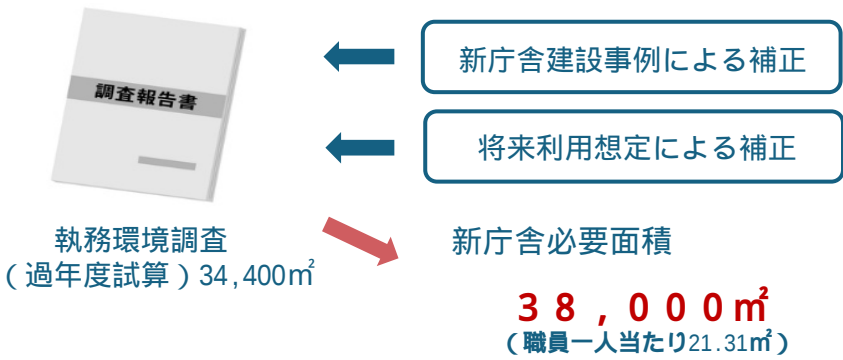


(2) 現庁舎と集約施設の現行規模



現庁舎 16,770㎡
集約施設 10,180㎡
現行規模の合計 約27,000㎡

2. 新庁舎の規模の算定



3. 算定結果の検証

(1) 公的基準（旧）による試算

39,000㎡

(2) 近隣区実績による職員一人当たり面積

平均 約23㎡（20～27㎡の範囲内）

3 新庁舎の配置検討

配置検討における前提条件と考え方		
前提条件	配置計画の考え方	動線計画の考え方
周辺施設の機能を集約	庁舎・区民会館・公園の利用者が共通して使える広場の形成	交差しない動線確保（自動車・自転車・歩行者）
仮設庁舎を作らない		駐車場を地下に集約（歩行者の安全性向上）
荒川公園の機能維持	みどり豊かな空間形成と回遊性の向上	駐輪場を道路付近に配置（利便性・安全性の向上）
東側・南側敷地の一体化		災害時の緊急車両動線の確保（明治通り・補助90号線）
区民会館建設用地の確保		
延焼危険範囲外の建設	周辺市街地と調和した景観形成	

